

10月16日・17日
参加記

私と安野受難者の出会い 遺族の聞き書きから10月の活動まで

広島大学大学院人間社会科学研究科 屈 帥帥

2021年は日本敗戦76周年である。76年前の1945年に、広島安野に強制連行され、強制労働させられた中国人360人のうち29人は死亡し、生き残った331人が帰国した。呂学文さんは強制連行、強制労働さらに原爆被爆を経験した安野受難者の生存者の一人である。強制連行からほぼ半世紀後、呂さんを始め労働者及び労働者の遺族たちは西松建設（当時の西松組）による強制労働の加害をめぐって、命をかけて交渉と裁判を行った。今回の集会の主題は呂学文さんの被害と闘いをふりかえり、強制連行、強制労働の歴史を継承することである。

私は2020年11月、広島大学の中村先生の授業で、安野で受難した中国人労働者を追悼する集いが開催されたことを知った。その後、河北大学の劉宝辰先生から紹介してもらって、山東省済南市の呂学文さんの家を訪れた。すでに、呂学文さんが他界して17年が経っていた。

故に、呂学文さんと会うことができず、呂志英、呂志剛さんなど呂学文さんの遺族から聞き書きを行った。12月、私は来日し、広島に到着した。今年4月呂志英さんに教えてもらって、「広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会」の事務局長である川原洋子さんと出会った。川原さんから呂学文さんなどの被害者のことを聞いて、もらった書籍と映像を見て、勉強した。これは今回の活動の前の呂学文さんなどの安野受難者との繋がりである。

16日の集会で、私は配布された資料と呂さんの多くの映像を通じて、呂学文さんの苦しみから広

島地裁の敗訴判決までをふりかえった。また、呂志英さんが父の思い出を話すのを聞いて、帰国後の呂さんの苦しみと呂さんの被害が家族にもたらした影響について理解した。

呂志英さんの話によると、呂学文さんは帰国した後、新華院に監禁された記憶を思い出したという。呂さんにとって、強制連行・強制労働は心の中で忘れられない心の傷だったのではないかと。

強制連行、強制労働、被爆の被害は日本の敗戦とともに終わったわけではない。被爆した呂さんは日本の原爆差別政策のために、長い年月放置された。結局、十分な治療を受けず原爆の放射線の後障害によって2003年に他界した。

1995年、「強制連行された中国人被爆者との交流をすすめる会」によって「中国人被爆者・癒えない痛苦」という書籍が出版された。被爆者の痛苦が半世紀を経ても癒えていないことを明らかにした。2009年の和解によって、謝罪、記念碑の建立、賠償（補償）という呂学文さんなどの受難者の訴えが実現した。

出版から26年後の現在、改めて呂さんの生涯を振り返ってみると、呂さんの傷は癒えたのではないかと。しかし、被爆者呂学文さんの被害が家族に残った影響は続いている。

2020年11月中旬、私は中国で呂志英さんなどの安野の受難者の遺族を対象にして聞き書きを行った。呂志英、呂志剛さんなどにインタビューをした5日後、呂志英さんから兄の呂志剛さんが突然死去したという知らせをもらった。

兄の急死の原因について、呂志英さんは何回も父の原爆被害に繋げて考えた。「兄の死が父の原爆

被害と関係があるかどうか」と呂志英さんが疑った様子を、私はいまでもはっきり覚えている。さらに、呂志英さんは近年現れた自身の持病と父の原爆との関係を推測した。原爆の遺伝の影響があるのではないかと、不安を持っている。生き残った強制連行された中国人被爆者が全員亡くなった現在も、原爆が被爆者の遺族らに与えた影響が続いている。

2019年からのコロナの影響が今も続いている。その影響を受け、安野受難者の遺族が現地で追悼の集いに参加することができなくなった。17日の追悼式は「安野中国人受難者之碑」の前で行なわれた。本当は現場に赴いて追悼したいと思っていた呂志英さんは、コロナの影響で実現できなかった。来年か再来年か、コロナが収束した時に、遺族を招待し、安野で一緒に活動に参加できることを願っている。

16日集会と17日追悼の集いを屈帥さんが撮影し、8分間の映像に編集しました。これを中国の「百度网盘」にアップして安野の遺族たちに見てもらっています。

映像を見た呂志英さんが、メールで思いを伝えてくれました。

＜呂志英さんからのメール＞

私は涙を流しながら、3回見ました。

10月16日の集会と17日の継承する会の中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集いの現地。安野にそびえ立つ高くて大きい記念碑を見て、二胡のあの悲しくもの寂しい音色を聞いて、空からは雨が降り、あたかも360人の先達たちの魂が再び安野に戻ってきて、あの忘れることのできない歴史が眼前にあるようです。

映像の中の父は、勇ましく西松と闘い、年をとり病気になっても360人のために晩年の命をささげました。

先達の皆さん、ゆっくりお休みください。日本の民間の平和を愛する友人たちと中国の家族は、決して皆さんを忘れません。継承する会は毎年、中国人受難者のために記念碑に献花して墓参してさせていただきます。善福寺は皆さんのために線香をあげて幸福を祈ってさせていただきます。

日本の友人たちも年老いました。私は家族を代表して、日本の平和を愛する友人たちが健康で幸福でありますようにお祈りします。

呂志英 2021年11月3日

屈さん編集の映像は
ユーチューブでも見るができます。

<https://youtu.be/5ksy0ZolzDQ>